

第13回 キャンパスベンチャーグランプリ全国大会

起業部“Ciamo”が「文部科学大臣賞」受賞

崇城大学

崇城大学（熊本市）起業部の「Ciamo（シアマ）」チームが、3月16日に開催された「第13回 キャンパスベンチャーグランプリ（CVG）全国大会」に出場し、技術的な要素を背景にした最も優秀なプランに授与される「文部科学大臣賞」と「テクノロジー部門大賞」を受賞した。

同大会は新産業の創出と人材育成を目的として開催されており、優れたプランを表彰することで起業家を目指す学生の支援につなげている。部門はビジネスとテクノロジーに分かれており、崇城大チームはテクノロジー部門で出場した。13回目を迎えた今回は、大阪大学（大阪市）や早稲田大学（東京都新宿区）など、13の大学・院・高等専門学校が学生がそれぞれの独創性に富んだ研究プランとその成果を発表するべく、一堂に会した。

工学研究科博士前期課程 応用生命科学専攻1年・古賀碧さんと生物生命学部 応用微生物工学科4年・後藤みどりさんが率いる

Ciamoチームは「焼酎粕を利用した光合成細菌の培養キットの開発・販売事業」について発表。焼酎粕で培養可能な光合成細菌を大量に培養するためのキット研究や光合成細菌と呼ばれる農水産業分野や医薬品、環境問題への解決など広く注目されている微生物について熱心に語った。

Ciamoチームが研究対象としている光合成細菌は「高価」とであるという課題を抱えている。そこで付加価値の低い「焼酎粕」を使用することで、従来よりも安価に提供し、農水畜産産業をさらに発展させていくことが狙いだ。最終的には事業を通して、焼酎粕の処理にかかるコストと蔵元の負担を削減し、光合成細菌によってエビの免疫力を高めるだけでなく、環境保全を行いながら安心・安全な食を世界中の人々に届けることを目標とする。

光合成細菌と焼酎粕を掛け合わせたキットは、養殖クルマエビへ応用した結果、エビの疾患に顕著な効果を示すことが分かった。微

第13回 キャンパスベンチャーグランプリ全国大会



賞状を手に笑顔の古賀さんと後藤さん

生物資材による治療効果は即効性に欠けていたものの、今回の試みにおいては短期間での効果を示した。

これらは研究段階であるものの、平成30年までに新規光合成細菌の探索、大量培養、養殖エビへの応用を確立させていく。同時にベトナムの商社・貿易企業と協力し、地元養殖企業への販売を展開していく予定だ。ベトナムでの実績を基にインド・インドネシアとアジアへ展開し、国際進出を視野に入れながら、将来はクルマエビ養殖以外の単価の高い魚種へも販売を拡大していく。

全国大会で優秀な発表が続く中、見事に文部科学大臣賞とテクノロジー部門大賞に輝いたCiamoチーム。着実に実績を積んでいく同チームに今後も目が離せない。